



## ロールバックの設定

---

この章の内容は、次のとおりです。

- [ロールバックの概要, 1 ページ](#)
- [注意事項および制約事項, 1 ページ](#)
- [チェックポイントの作成, 2 ページ](#)
- [ロールバックの実装, 3 ページ](#)
- [ロールバック コンフィギュレーションの確認, 4 ページ](#)

## ロールバックの概要

ロールバック機能を使用すると、Cisco NX-OS のコンフィギュレーションのスナップショットまたはユーザ チェックポイントを使用して、スイッチをリロードしなくても、いつでもそのコンフィギュレーションをスイッチに再適用できます。権限のある管理者であれば、チェックポイントで設定されている機能について専門的な知識がなくても、ロールバック機能を使用して、そのチェックポイント コンフィギュレーションを適用できます。

いつでも、現在の実行コンフィギュレーションのチェックポイントコピーを作成できます。Cisco NX-OS はこのチェックポイントを ASCII ファイルとして保存するので、将来、そのファイルを使用して、実行コンフィギュレーションをチェックポイント コンフィギュレーションにロールバックできます。複数のチェックポイントを作成すると、実行コンフィギュレーションのさまざまなバージョンを保存できます。

実行コンフィギュレーションをロールバックするとき、**atomic** ロールバックを発生させることができます。**atomic** ロールバックでは、エラーが発生しなかった場合に限り、ロールバックを実行します。

## 注意事項および制約事項

ロールバックに関する設定時の注意事項および制約事項は、次のとおりです。

- 作成できるチェックポイント コピーの最大数は 10 です。
- あるスイッチのチェックポイント ファイルを別のスイッチに適用することはできません。
- チェックポイント ファイル名の長さは、最大 75 文字です。
- チェックポイントのファイル名の先頭を `system` にすることはできません。
- Cisco NX-OS Release 5.0(2)N1(1)以降は、チェックポイントのファイル名の先頭を `auto` にできます。
- Cisco NX-OS Release 5.0(2)N1(1)以降は、チェックポイントのファイル名を `summary`、または `summary` の何らかの省略形にすることもできます。
- FCoE をイネーブルにすると、チェックポイントおよび設定のロールバックの機能はディセーブルになります。
- チェックポイント、ロールバック、または実行コンフィギュレーションからスタートアップコンフィギュレーションへのコピーを同時に実行できるのは、1 ユーザだけです。
- `write erase` および `reload` コマンドを入力すると、チェックポイントが削除されます。 `clear checkpoint database` コマンドを使用すると、すべてのチェックポイント ファイルを削除できます。
- ブートフラッシュでチェックポイントを作成した場合、ロールバックの実行前は実行システムコンフィギュレーションとの違いは実行できず、「変更なし」と報告されます。
- チェックポイントはスイッチに対してローカルです。
- `checkpoint` および `checkpoint checkpoint_name` コマンドを使用して作成されたチェックポイントは、すべてのスイッチの 1 つのスイッチオーバーに対して存在します。
- ブートフラッシュ時のファイルへのロールバックは、`checkpoint checkpoint_name` コマンドを使用して作成されたファイルでのみサポートされます。他の ASCII タイプのファイルではサポートされません。
- チェックポイントの名前は一意にする必要があります。以前に保存したチェックポイントと同じ名前を上書きすることはできません。
- Cisco NX-OS コマンドは Cisco IOS コマンドと異なる場合があります。

## チェックポイントの作成

1 台のスイッチで作成できるコンフィギュレーションの最大チェックポイント数は 10 です。

### 手順の概要

1. `switch# checkpoint [ cp-name ] [ description descr ] | file file-name`
2. (任意) `switch# no checkpointcp-name`
3. (任意) `switch# show checkpointcp-name [ all ]`

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<pre>switch# <b>checkpoint</b> { [ <i>cp-name</i> ] [ <b>description</b> <i>descr</i> ]   <b>file</b> <i>file-name</i> }</pre> <p>例： switch# checkpoint stable</p>	<p>ユーザチェックポイント名またはファイルのいずれかに対して、実行中のコンフィギュレーションのチェックポイントを作成します。チェックポイント名には最大 80 文字の任意の英数字を使用できますが、スペースを含めることはできません。チェックポイント名を指定しなかった場合、Cisco NX-OS はチェックポイント名を user-checkpoint-&lt;number&gt; に設定します。ここで number は 1 ~ 10 の値です。</p> <p>description には、スペースも含めて最大 80 文字の英数字を指定できます。</p>
ステップ 2	<pre>switch# <b>no checkpoint</b> <i>cp-name</i></pre> <p>例： switch# no checkpoint stable</p>	<p>(任意)</p> <p><b>checkpoint</b> コマンドの <b>no</b> 形式を使用すると、チェックポイント名を削除できます。</p> <p><b>delete</b> コマンドを使用して、チェックポイントファイルを削除できます。</p>
ステップ 3	<pre>switch# <b>show checkpoint</b> <i>cp-name</i> [ <b>all</b> ]</pre> <p>例： switch# show checkpoint stable</p>	<p>(任意) チェックポイント名の内容を表示します。</p>

## ロールバックの実装

チェックポイント名またはファイルにロールバックを実装できます。ロールバックを実装する前に、現在のコンフィギュレーションまたは保存されているコンフィギュレーションを参照しているソースと宛先のチェックポイント間の差異を表示できます。



(注) atomic ロールバック中に設定を変更すると、ロールバックは失敗します。

手順の概要

1. **show diff rollback-patch** { **checkpoint** *src-cp-name* | **running-config** | **startup-config** | **file** *source-file* } { **checkpoint** *dest-cp-name* | **running-config** | **startup-config** | **file** *dest-file* }
2. **rollback running-config** { **checkpoint** *cp-name* | **file** *cp-file* } **atomic**

## 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>show diff rollback-patch</b> { <b>checkpoint</b> <i>src-cp-name</i>   <b>running-config</b>   <b>startup-config</b>   <b>file</b> <i>source-file</i> } { <b>checkpoint</b> <i>dest-cp-name</i>   <b>running-config</b>   <b>startup-config</b>   <b>file</b> <i>dest-file</i> }  例： <pre>switch# show diff rollback-patch checkpoint stable running-config</pre>	ソースと宛先のチェックポイント間の差異を表示します。
ステップ 2	<b>rollback running-config</b> { <b>checkpoint</b> <i>cp-name</i>   <b>file</b> <i>cp-file</i> } <b>atomic</b>  例： <pre>switch# rollback running-config checkpoint stable</pre>	エラーが発生しなければ、指定されたチェックポイント名またはファイルへの atomic ロールバックを作成します。

次に、チェックポイントファイルを作成し、次に、ユーザ チェックポイント名への atomic ロールバックを実行する例を示します。

```
switch# checkpoint stable
switch# rollback running-config checkpoint stable atomic
```

## ロールバック コンフィギュレーションの確認

ロールバックの設定を表示するには、次のいずれかの作業を行います。

コマンド	目的
<b>show checkpoint</b> <i>name</i> [ <b>all</b> ]	チェックポイント名の内容を表示します。
<b>show checkpoint all</b> [ <b>user</b>   <b>system</b> ]	現行のスイッチ内のすべてのチェックポイントの内容を表示します。表示されるチェックポイントを、ユーザまたはシステムで生成されるチェックポイントに限定できます。
<b>show checkpoint summary</b> [ <b>user</b>   <b>system</b> ]	現在のスイッチ内のすべてのチェックポイントのリストを表示します。表示されるチェックポイントを、ユーザまたはシステムで生成されるチェックポイントに限定できます。
<b>show diff rollback-patch</b> { <b>checkpoint</b> <i>src-cp-name</i>   <b>running-config</b>   <b>startup-config</b>   <b>file</b> <i>source-file</i> } { <b>checkpoint</b> <i>dest-cp-name</i>   <b>running-config</b>   <b>startup-config</b>   <b>file</b> <i>dest-file</i> }	ソースと宛先のチェックポイント間の差異を表示します。
<b>show rollback log</b> [ <b>exec</b>   <b>verify</b> ]	ロールバック ログの内容を表示します。



---

(注) すべてのチェックポイント ファイルを削除するには、**clear checkpoint database** コマンドを使用します。

---

